

八幡市総合計画審議会 第2部会(第2回) 議事要旨

■日 時：平成 29 年 6 月 1 日（木） 10:00～12:00

■場 所：八幡市文化センター 3階 会議室 3

■出席者

【委員】

泉谷 透 委員、岡山 敏哉 委員、尾形 良治 委員、河原崎 保 委員、小林 敦 委員、出嶋 隆富 委員、豊田 勝代 委員、政 博之 委員、溝口 知男 委員、吉田 元男 委員、橋本 行史 委員

【事務局】

足立 政策推進部長、曾我 政策推進部次長兼政策推進課長、堀川 政策推進課係長、岡田 政策推進課係長

■欠席者

岡本 圭司 委員（代理出席：京都府山城広域振興局企画総務部長 小谷 充茂 氏）、高田 稔幸 委員、田中 恆清 委員（代理出席：一般社団法人八幡市観光協会専務理事 佐野 良夫 氏）、桑島 偉倫 委員、谷口 栄一 委員

■次第

1. 開会
2. 協議・報告事項
 - ・[基本目標 4]「自然と歴史と文化が織りなす『観幸のまち やわた』」について

■配布資料

- ・第 4 章 自然と歴史と文化が織りなす『観幸のまち やわた』 ※施策体系のまとめ
- ・第 4 章 自然と歴史と文化が織りなす『観幸のまち やわた』（素案）

■傍聴者

なし

1. 開会

岡山部会長（以下、「部会長」）：前は健康・福祉の分野であったが、今回は6つの基本目標の第4章「自然と歴史と文化が織りなす『観幸のまち やわた』」についてご議論いただきたい。第1節の「シビックプライドの醸成」は、市民ベースの日常的生活の中で、文化や歴史等を通じたシビックプライドの醸成を目的とした項目である。第2節の「幸せと出逢う観光まちづくり」は、外から八幡市を訪れる方に対し、石清水八幡宮やその他の歴史的・文化的なブランドを利用した施策の展開をしていく内容となる。大きな2つの内容について、活発なご議論をお願いしたい。

2. 協議・報告事項

部会長：それでは議題に入るが、先程も説明させていただいた、第1節「シビックプライドの醸成」は、市民の生活の中で、自然や文化・歴史・芸術等を市民の意識の向上につなげていきたいという施策が盛り込まれている内容になっている。では、事務局から説明をお願いしたい。

事務局：（資料説明（第1節））

部会長：ご質問、ご意見等はないか。

委員：「国際交流が行われていないことが課題」とあるが、「国際交流」とは何を意味しているものか。

事務局：市として行っている文化交流事業などにおいて、目立った国際交流のイベントがなかなかできていないことを指している。

委員：中国の宝鶏市とは書や絵の交換交流を進めている。また、過去にドイツの方が来られた際、らくがき寺で生け花や茶の講習会を実施したこともある。これらも国際交流に含まれると思う。

事務局：姉妹都市としての交流はあるが、文化芸術交流という意味でどこまでできているのかという観点からこのように表記している。

部会長：これらの取組は文化協会が主催しているのか。市の国際交流の部署が実施しているのか。都度対応しているのか。

事務局：国際交流については、政策推進部市民協働推進課が市民の動きに合わせて都度協働している。中国の宝鶏市と、エジソンの生誕地であるアメリカのマイラン村とは交流がある。基本的には市民間交流を主体としており、現時点では市として積極的な交流はないが、市制40周年の式典でお招きして、1つの交流が行われると考えている。文化交流を都度実施しているが、継続的な文化交流はできていない。

委員：もう少し実施しているのではないか。主催者は順番に変わっているが、八幡の

文化交流は年に2回実施していると思う。

- 部会長 : 再確認して整理してもらいたい。市民間交流が行われているのであれば、サポートすることなどを目標に加えることを検討していただきたい。
- 委員 : スポーツ施設や公園の芝生化について、課題は6月から11月の芝生の維持管理である。維持管理作業を行う主体が高齢者のため、特に6月から9月の日中作業（ローテーションで散水）は大変。そこで、貯水槽の設置や雨水の再利用、スプリンクラーなどの整備によって負担軽減策を講じてほしい。
- 部会長 : データとしても公園管理委託率が減少していく中で、今後どのように対応していくのか。
- 事務局 : 公園の管理は地元でしていただくということで自治会と調整をしながら行っている。自治会の高齢化が進む中で加入率も低下している。地域コミュニティ充実の観点からパンフレットの作成など加入率促進に努めているところではある。高齢化の進む自治会から公園管理をやめたいという声も聞いている。対策としては、現状では自治会にお願いしている段階でとどまっている。
- 部会長 : ここで具体的な施策を出すというよりは、今後の方向性について、総合計画の中で提示できないかを検討してほしい。
- 委員 : 全体的な感想になるが、「市民がいろんな芸術に触れる機会をつくりましょう」というような総花的な文書になっている。誰に向けて「お茶に触れる機会の創出」を提供するものなのかというような視点が欠けているのではないか。「ふるさとやわた」を唱えるならば、やはり、子どもに対して文化芸術振興施策を届けるということに視点をおけばよいのではないか。
- 部会長 : 第1部会の中でも、子どもに関する章（基本目標2「子どもが輝く『未来のまち やわた』」）があるため、そちらで検討している。6つの基本目標できれいに施策が分かれているが、子どもの意識の向上や教育は全体に関わってくる話だと思う。総合計画全体のまとめ方として、表現方法も検討していきたい。
- 事務局 : 市では、中学生に対する茶文化体験会（茶会、茶事体験、おもてなしの心の育成等）を実施している。この4章でも、お茶の文化を子ども達に広めていく機会の提供について触れていく必要があると考えている。2章の教育に出てくる「八幡の特徴を活かした文化的なもの」とリンクさせながら検討していきたい。
- 委員 : 「施策の進捗をはかる指標」について、例示としてイベント参加者数や利用者数を挙げられているが、「誰が主体か」という視点を踏まえて設定すべきではないか。たとえば、活動団体の数の状況や推移、同内容の活動を実施する団体の交流回数等を指標に加えることで、進捗状況が分かりやすくなるのではないか。
- 部会長 : 全体に関わることであり、指標にもっていけるように、関連データである担い手のデータや施策の背景に関するデータを整理した上で検討していただきたい。市民と行政が協働する部分の整理も必要である。

委員 : シビックプライドの醸成については、市民の方にまちに対して誇りや愛着を持ってもらうために、歴史・文化を学ぶことが重要であると思う。有名な石清水八幡宮や松花堂などの歴史を学ぶこと以外にも、各地域には根付いている歴史がある。たとえば、美濃山には「御幸」「宮道」などの地名があり、昔は皇族が活動するための敷地だったと聞いている。古くから住んでおられる方は、先祖代々地名の由来等を聞いている。そういった地域の高齢者から歴史を聞く機会や取組があれば、自分の地域への理解が進み、愛着も醸成されるのではないか。また、市民自らが活動していこうと思うためには、市もともに負担やサポートすべきではないか。たとえば、市民中心のイベントの際に必要な警備を今は市民が担っているが、行政も関与し支える仕組みを作っていくと良いのではないか。行政が主体となって行うだけでなく、市民主体となって進めていく活動を、行政が機会の平等を図りながら後押ししていくべきではないか。

部会長 : 歴史については、現在、歴史街道のことしか掲げていない。地域には地霊と歴史景観に関わる信仰もあり、目に見えない歴史文化がある。石碑で語り継いでいるのか、地域の詳しい人と交流を深めていくのか、今後も歴史文化については整理が必要である。

会長 : 「シビックプライドがあるか・ないか」というと平板な印象を受けるが、「シビックプライドをいかに育み高めるのか」を考えなくてはならない。シビックプライドの高め方としては、子どもに対する働きかけ等が1つの方法ではないかと思う。指標について、満足度を計る必要があるなら、担い手の世代や参加者の年齢、市民協働の活動など、定量的に分かるものを指標に加えることができると良いのではないか。

部会長 : この節は表面的に捉えられかねない。歴史や文化・伝統を考えると人の意識の中にどういったものがあるのか、それを新しい人や若い人にどうやって受け継いでいくのかが重要。文言を再度検討し、誤解の受けないニュアンスを持たせていくのがよい。

(休憩)

部会長 : 再開する。第2節の「幸せと出逢う観幸まちづくり」について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 : (資料説明 (第2節))

部会長 : ご意見をいただきたい。

- 委員 : 「滞在型の観光施策」と書いているが、「滞在」とは、ただ1時間を2～3時間に延ばす意味なのか、宿泊を指しているのか。「滞在」の具体的な取組としてはどういった施策が挙げられるのか。
- 事務局 : 「お茶の京都」として広域で観光を考えているということもあり、宿泊場所については、市内に限らず考えることもできる。
- 委員 : 指標について、全体に共通したことになるが、市役所側でアレンジした会の開催回数や会の参加者数はあくまでも参考データでしかない。観光客の満足度や市民の反応を見ることは重要だが、そのデータを収集することは、アンケートの回収率や費用等の面で難しいのではないかと。同様に外国人の観光客の反応を知るのもかなり工夫がないと難しいと思う。指標のデータ収集は、できるところから始めれば良い。たとえば、観光案内所の訪問者の何人かに聞き取りを行うというようなサンプリング調査で指標化していくことが良いのではないかと。また、イベントであれば、その会場で市民への聞き取り調査を行って、指標の進捗を計れば良いのではないかと。
- 委員 : 「観幸のまち やわた」を進めていけば、八幡市の活性化につながる。「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」はどの程度進捗しているのか。今後、どのような取組をしていくのかお聞きしたい。また、八幡宮への観光バスの駐車場を現在八幡宮周辺に設けているが、八幡宮から離れた市内数か所に市が観光バス用駐車場を設けて、市内を歩ける観光ルート作りをしてもらいたい。市内の周遊観光が可能になり、「滞在型観光」にも関係してくる。ルート周辺に商店ができれば、市の商業の活性化にもつながる。この案を総合計画に盛り込んでほしい。
- 事務局 : まちづくり構想は、1年をかけて検討している。この総合計画審議会部会のメンバーの方の一部を含め、お茶の京都交流拠点作りの協議会において昨年1年間議論をしていただいた。駅前整備等を含め観光まちづくりをどのように行っていくか、方向性を共有していくために、ブランドコンセプトを検討し、3つの課題として整備した。アンケート分析結果等から、観光まちづくりを活性化させていくためには、本物志向や知的好奇心を満足させる付加価値づくり等が必要であることや、市民の意識を高めていく必要があることが分かった。観光客が八幡の歴史や文化の様々な物語に出会い、さらに茶文化のおもてなしで新たな交流が生まれるような駅前をしたい、といった意見でまとまったところである。具体的な検討を進めるためには、市民や事業者等を巻き込んで事業として考える必要があると考えている。構想については、最終版を整理している。最終版をお配りするが、総合計画の1つの柱にしていきたい。駐車場や駅前整備については、ハード整備に関することなので、すぐにお示しすることはできない。景観を含めてまちづくりをどういった主体で進めていくのかという点も検討する必要がある。

- 委員 : 観光ルートも考えて、計画してほしい。ケーブル周辺に駐車場を設けるだけでは市内周遊観光につながらないので、市としても何か取組をしてほしい。
- 委員 : まちのイメージを良くする、まちを発見するという意味では、玄関口の八幡市駅の整備は最も重要。観光資源を集中して施策を実行してほしい。まずは起爆剤として、八幡市駅前の整備を進め、そこから派生して施策を拡大していくことがシビックプライドの醸成にもつながるのではないかと。市民をどう巻き込むかも大事。ムーブメントがないと、市役所やここにいるメンバーだけでは動かない。また、全国自治体の中で駅前整備を含めた観光客の市への入り口の整備を行うことでうまくいった好事例があれば知りたい。
- 委員 : 確かに、八幡市駅は観光資源を有する市の玄関口としては心もとない状態。市と事業者とが連携してもっと整備すべきである。ハード整備の事例の1つとしては寝屋川市駅がある。駅の整備に伴って、バスや公共交通が機能化され、きれいになった。寝屋川はきれいな川ではなかったが、親水コーナーのようにして住民のイベントを開催できるように整備し、イメージが以前と変わった。八幡市駅も、駅前広場の反対側を整備したら、三川合流ルートにもつながる。
- 会長 : 駅前整備を検討すると、近代的な整備が良いという意見も、古い形（レトロ）での整備にした方が良いという意見も出てくる。阪急電鉄の駅前整備は近代的な整備が中心だが、京阪電鉄は近代型にもレトロ型にも対応できるのか。今後、議論を少しずつ進めていくためには、イメージづくりを共有しなければ前に進まない。
- 委員 : 「近代型かレトロ型か」を出発点に考えるのではなく、駅周辺を含め、提供できるコンテンツからあり方を考えていくのが良いのではないかと。
- 部会長 : 物理的な面もあるし、事業的な視点で検討する必要もある。事業面からも、近代型に建物を大きくして容積率をアップさせて事業費を中期的に回収するのか、伊勢のおかげ横丁のように、歴史を意識した整備を行うのか。ただ、歴史を意識した整備では事業費を一気には回収できないので、長期的な視点で、観光客の増加を見据えた事業投資を回収することになる。イメージと事業採算性を踏まえた整備を検討することも重要ではないかと。
- 委員 : イメージ作りのためには、駅周辺と連動させた空間作りが必要になると思う。
- 委員 : 伏見は駅を出た瞬間に、伏見とわかる外観となっている。
- 部会長 : 観光客の満足度や観光客の見通しなどを含め、慎重に検討を進める必要がある。
- 委員 : 観光協会と行政の方向性は一致しているはず。市民参画の一角として、ボランティアガイドの育成・登用など観光協会と連携していくべきだと思うが、現状はどうなっているのか。
- 委員 : ボランティアガイドは H29 年 3 月末で 25 名いる。日常の活動として、観光協会に常駐しており、八幡市の観光のみならず、近隣を含めた観光案内を行って

いる。ボランティアガイドは申込制で募集していて、H28年度は75名程度から応募があった。高齢化もあって、今年度、観光協会でガイドの講習会を行い、現在37名のボランティア体制となっている。12名の方には研鑽して半年ほどかけて知識を高めてもらい、秋にデビューしていただく。当面は現状維持を目指していく。

委員 : ボランティアには地域ごとの偏りがあるのか。可能であれば、市内全域から募集してほしい。

委員 : 市内全域から来ていただいている。「男山一周歴史ウォーク」(約8キロ)として新たにハイキングコースを設置した。市民だけでなく市外の方も八幡の歴史を学びながら歩いてもらえるコースにしていきたい。

委員 : 指標の「観光意欲度」とはどういったものか。また、「観光消費額」とあるが、観光入込客数が増えると、当然、観光消費額も増える。しかし、関連データを単純に計算すると消費単価は300円程度になり、この単価の低さが課題になるかと思う。可能であれば、1人当たりの観光消費額を記載すると良いと思う。八幡JCT・ICについては書かれているが、広域観光の視点からも、新名神の開通に伴う効果が分かる指標も加えると良いのではないか。また、背割堤の桜は最近賑わっているので、河川敷等の課題もあると思うが、さくらであい館のオープンもあり、この辺りも観光資源として使っていくのがよい。

事務局 : 「観光意欲度」とは、民間のブランド総研で調査した内容の中で、消費者が市に観光で訪れたいと思うかという意欲を表したものである。この意欲度のデータを指標に入れてはどうかと考えている。観光消費額は、おっしゃる通り、1人当たり200~300円となり、近隣市と比べても低い数字となっている。その数字を上げていくためにも、様々な事業を作っていけるような事業主体の創出を検討している。

部会長 : JCT・ICも事業で活用していくことを考えたら良いのではないか。

事務局 : 観光の切り口だけではなく、新たな土地利用の観点からも、JCT・ICの活用については今後検討していく。

委員 : プロモーションは重要である。観光協会の取組が重要になる。民間事業者と連携したプロモーション活動を検討しても良いのではないか。最近SNSによって観光地の口コミが拡散し、集客につながることもある。SNSは情報の信頼性に問題があるものの、有効な取組ではあると思うので、プロモーションの手段の1つとして、活用策を検討することも重要ではないか。

委員 : 石清水八幡宮等やさくらであい館を起爆剤として、組み合わせて観光を進めていけないか。お茶の京都やものがたり観光もあり、日本茶等のインストラクターをうまく活用し、お茶文化の発信・普及を図ってはどうか。

委員 : 八幡市駅前整備について、第4次総合計画には、駅北側広場の整備の促進と男

山方面の交通網の整備とあるが、南側の整備がどこまで進んでいるのかを確認したい。構想の中で文書だけでは進捗は分かりにくく、イメージ図を示した方が良い。

事務局 : 構想の中では、かつてあった門前町のような歴史と文化に出会える、茶文化でのおもてなしや交流が促進されるような参道や小道があるというイメージは示しているが、具体的な整備のイメージ図は決まっていない。

会長 : 整備のイメージについてこういった場で少しでも具体化できれば良いと思う。

部会長 : 本日、いろいろな活発なご意見をいただいたので、事務局で整理し、総合計画の最終的な文言の作成に反映していただきたい。部会終了後、他にご意見があれば、事務局にご意見をお寄せいただきたい。次回は7月6日(木)の10時から開催し、「しなやかに発展する 活力のまち やわた」について、最後に出た幹線道路の整備を含めた議論になると思う。第2回目の総合計画審議会第2部会を終了する。本日はありがとうございました。

以上

※発言者を示す「委員」には、代理出席者を含む。